

# KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズスマイルラボジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.10  
**2022**  
TAKE FREE



## KIDS SMILE LABO の 1 枚

副園長の森誉さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

### “わたしたちの歩幅”

4 月を迎えたら私たちは一つ上のお姉さんになる  
お姉さんになる気持ち  
そこにはたくさんの自信がある  
すごいでしょって気持ちがある

でもね  
まだまだ甘えたい気持ちだってたくさんある  
私たちは進級するけれど  
私たちは私たちの歩幅で一つ上のお姉さんを過ぎていくから  
ゆったりゆったり見守っていてね

photo & text by morimori

## 今月のおすすめ note !

かおちゃんのつれづれラボ日記

### 「1st Anniversary!」

3月1日で1周年を迎えた KIDS SMILE LABO ! 貴重な写真と共に、この1年を振り返っていますよ!

もりもりのわくわくラボ日記

### 「陶芸体験の中で」

お泊り保育で行った陶芸体験。2人の真剣な表情をぜひご覧ください。

園長 松下かおる



副園長 森誉



続きは note にて →

# kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS\_SMILE\_LABO

KIDS SMILE LABO 園長の育ち合い note

# 思い通りにいかないことも学べる場所

近年、少子化やコロナ化の環境によって年齢の異なる子ども同士の関わり合いが減少しています。私たち大人が子どもだった時代には、兄弟姉妹、ご近所の子ども同士で、公園や空き地などにみんなで集まって遊ぶ場所と時間の余白がありました。その空間には、特に遊具があるわけでもなく、おもちゃがあるわけでも、ゲーム機があるわけでもなかったのですが、季節ごとに咲く花や虫たちと共に、毎日飽きることなく遊んでいたことを覚えています。この、昔当たり前にあった、年齢の異なる子どもたちが一緒になって遊ぶ中では、年上の子が年下の子の面倒を見たり教えたり、年下の子が年上の子に憧れをもったり、まねしたりする中で、子どもたちは遊びを通して人と人との関わり合いや力加減を学び、その中で生きていくために必要な力をつけていったのです。このような関わり合いが少なくなってしまった現代に、子どもたちが共に学び合い、成長し合うことを目的として『縦割り保育』が提案されたのです。

## KIDS SMILE LABOでも『縦割り保育』を行っています

同年齢でも集団でいると、いろいろなドラマが起こるのですが、異年齢で関わるということは、それぞれの発達段階の違いもあるので、さらにそれぞれの年齢の気持ちが行きかうドラマが毎日巻き起こります。

例えば、2歳児になりたての子たちは、作ることもするけれど、まだ壊すことが楽しい時期。4・5歳児の子ども達は組み立てたり、作り上げていくことが楽しい時期。その子ども達と一緒に過ごしているということは、悪気なく相手の物を壊してしまったりすることもあります。

小さな子だからと最初は我慢している4・5歳児の子も、回数を重ねると「なんで壊すの!？」と態度が変わって来たりします。年下の子からしたら、『壊すのが楽しいからだよ』という気

持ちかもしれませんが、4・5歳児の子たちの気持ちは納得できないこともあるでしょう。その逆に、年下の子が困っていたり泣いている時に、「どうしたの?」「やってあげようか?」とそっと寄り添って一緒に考えてくれる年上の子もたちの姿も見られます。この両方のドラマに『思考』があります。この思考は想像力からくるもので、できなくて困っていたらどんなことをしてあげればよいのだろう、けんかになりそうだけどうしようかな。と想像して、考えて、行うという知的活動が促されています。考えることで相手には自分とは違う思いがあることを知り、同時に捉え方も1つではないということも学べるのです。自分の思うように進むだけの世界では、決して経験できない『思い通りにいかないこと』の中には、心の育ちに重要な要素がたくさんつまっている大切な時間だということがわかります。

## これから生きる子どもたちへ

現代では SNS が発達したことに加えコロナ化という状況で、私たち大人もいつの間にかコミュニケーションが希薄になり、益々子育てしにくい環境になっています。しかしそんな時代だからこそ、子育てを園とご家庭と一緒に連携し、子どもを真ん中に置いて私たち大人もたくさん『思考』を重ね、人生の土体といわれる0～5歳児の貴重な時期と一緒に楽しく彩っていける子育てのパートナーでいたいと思っています。

子どもからは「かおちゃん」の名で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。15年の保育現場経験を経て、保育園 KIDS SMILE LABO を開園。趣味の畑作業を通して、日常的に自然に触れ、「地域」「家族」「自然」「仲間」と繋がることを自身のテーマとして日々追究している。

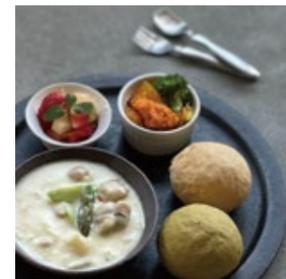
保育園 KIDS SMILE LABO  
園長 松下 かおる



## KIDS SMILE LABO 食育への想い



昨年3月1日に開園して、あっという間に一年が経ちました。見て美味しい、食べて美味しい、子ども達が楽しみにしてくれる給食を提供したい。調味料や食材にこだわる安心安全な給食を提供したい。そんな思いからのスタートでした。開園したばかりの時は、子ども達が給食の時間や食べることを好きになってくれるように、今まで家庭で口にすることがありそうな食材を使うことを一番考え、親しみやすいメニュー作りをしました。嬉しいことに子ども達の人数が増え、それに伴い活動の幅も広がりダイナミックに遊んでいる LABO の子ども達。たくさん遊んだ子ども達にとって、昼食やおやつはとても貴重なエネルギー源となりますので、美味しいことはもちろん、お腹にしっかりとたまることも大切にしています。また、食材選びでは厚木産の無農薬野菜にこだわり、農家さんとの繋がりも増やしてきました。提携する農家さんから届く野菜は、スーパーでは出会うことのない物が多く、パプリック・葉付きにんじん・カラーにんじん・菊芋・ヤーコン・色々な種類のじゃがいも等々、季節により変わるので調理する私たちも毎回届くのを楽しみにしています。届いた旬の野菜を使用することで季節感を出すこと、栄養面でのバランスもしっかりと考え、調理面では切り方や盛り付けも子ども達が食べやすいように工夫をしています。来年度も、今以上に農家さんとの繋がりを増やし、畑から届く新鮮な野菜を中心として、手作りのだしや発酵食品、安全な調味料を使用し子ども達の土台となる食を支える KIDS SMILE LABO らしい給食を提供していきたいと思えます。最後になりましたが卒園する2人、毎日沢山食べてくれてありがとう。



# KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

## KOMOREBI

### ぽかぽか春がやってきた！

〇歳児

お散歩でよく行く広場にも小さなお花やつくしが出てきたり、カエルやアリが活動してきたり、ぽかぽか暖かい春の兆しが見え始めてきました。

暖かい日には足裏を刺激していきたいので子ども達も保育者も裸足になって過ごしています。先日裸足で過ごしている時大人は足裏が痛くてなかなか歩きにくい所を子どもはスイスイ歩く...という場面があり、子どもたちの今まで鍛えてきた足裏はやっぱりすごいな...と改めて感じました。

そして最近思いやりの気持ちも芽生えてきていて、お友達が泣いていると顔を覗き込んで心配している表情になったり頭を撫でてくれたり、そんな子ども達の姿を見て心があたたかくなっています。

### 素晴らしい成長を見せてくれたこの1年

入園当初の子ども達はなかなか新しい環境に慣れずに泣いてしまったり、お散歩に出るとシートの上に座り保育者の側から離れられない日が続いたり、抱っこをしなれば泣き止まなかったりしていた子ども達。子ども達からの発信を大切にできたこの1年、それぞれ違いはありますが、一人ひとりの気持ちが外へ向かったその時の表情が素敵で忘れられません。子どもの心が動くまで待つ。というシンプルだけどなかなか難しい大人の関わり。しかし、心が動き出した時の感動は私にとって宝物になりました。

目をキラキラさせて走り回る姿、虫たちとの出会い、水や絵の具や小麦粉粘土の不思議な感触を楽しむ気持ち、すごく真剣な表情で石や土を観察する姿、斜面を頑張って登る時の表情、大事な物を守る時の力強さ、悲しくなって「助けて」を求める姿、様々な場面に立ち会う事が出来たこともとても嬉しく感じています。

これからももっともっと Labo で色々な経験をして成長していくのだと思うとこれからのこもれび0歳児チームの成長が本当に楽しみでしかたありません。

ここまで子ども達が自分を出せるようになってきたのも保護者の方々が日々私たちの保育をあたたかい気持ちで見守ってくださったおかげだと思っています。これまで大切なお子様を Labo に預けて頂き、様々なことにご協力頂き本当にありがとうございました。大切なお子様たちと出逢わせて頂きありがとうございました。 文 みっきー



### どんどん成長をする子どもたち

1歳児

12月のJOURNALのときにはなんでもかんでも「イヤ！」名づけてイヤイヤ怪獣だった子どもたちですが、ここ最近では「〇〇はイヤ〜！」「いらぬのよ〜！」「もっとあそびたい！」と自分の気持ちを言葉にして伝えてくるようになりました。

先月末から行っていった懇談会でも、多くの家庭からこの時期ならではのこの姿に悩んでいるお話を受けました。ご家庭同様、LABOでも子どもたちのイヤイヤは沢山見られているのですが、そんな時はまずじっくりその気持ちに向き合い受け止めていっています。「〇〇ちゃんはこうしたかったんだね。」「そっか。それなら一回やってみようか。」すると、子どもたちの「イヤ」な気持ちも少しずつ和らいできて、次の行動に移るきっかけになることもまた、「なんでも自分でやりたい」時期なので、どうしてもイヤな気持ちが変わらないときには「それなら〇〇か〇〇。どっちにする？」などと選択肢を与えてみると、子どもはく自分で選んで決めた」ということが喜びになり、納得したりします。

今ならではの「イヤイヤ期」。大人にとっては忙しい日々の中でイライラとしてしまうこともあるかと思いますが、今存分に発揮できることは、今後の育ちの中で「ありのままの自分を出していいんだ」「自分を出しても受け止めてくれる」といった自己肯定感にも繋がっていきます。

いつでもどんなことでもお話は聞きますので、その時はぜひ送迎時にお話してくださいね。

### 楽しい一年間をありがとう

さて、まもなく3月も終わり新年度がやってきます。

3名でスタートした1歳児は9月には4名にそして、11月には6名になりました。

入園したときはハイハイだった子が歩くようになったこと、単語から少しずつ文になり会話を楽しむ姿、ズボンやオムツ、靴や靴下をグイッと自分で履けるようになったこと、食べたことのない食材でも食べられるようになったこと...挙げたらキリがない程に日々子どもたちの成長を感じながら過ごしてきました。

このクラスは、とにかく自由！そして、甘えん坊！！最後に食欲旺盛！！一人ひとりそれぞれの個性を沢山発揮してくれ、毎日がとても賑やかにそして一瞬で過ぎていきました。4月からは待ちに待った大きい部屋での生活のスタートです。そして、新しいお友達も1人増えます。次の一年はどんな成長をするかな、どんな時間を作っていくのかな。ワクワクが止まりません。これからもご家庭と一緒にお子さまの成長を見守っていきましょうね！

文 あづあづ



KSLJ

# KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

## MINAMO

### ラボに泊まろう！

2~5歳児

年長児のお泊まり保育。まずは夕ご飯づくりから。メニューは、2人の希望をミックスさせた「オムカレー」。皮むきも、包丁さばきもとってもスマート！これまでの調理経験を存分に発揮していました。そしてその美味しいこと！大盛りによそったご飯をペロリと平らげる姿からは2人の満足感が感じられました。

食後はみかん風呂を堪能し、「家の望遠鏡で星が見たい！」と本厚木の町に向けてレンズを向けました。星を見たい情熱で覗き込むと、星の変わりに見えたのはビルの灯り。「口紅星」「看板星」と星々に名前をつけて盛り上がりました。

そして1日目の最後はお楽しみタイム。ショートムービーを見た後、届いたのはかお園長からの謎の手紙。懐中電灯をもち、暗闇を嫌がりながらも手紙の通り頑張って進む2人。謎を解くと出会う司令に従いながら、暗闇の設計事務所、レストランと足を運びました。怖かったかと思うと、急に勇ましくなったりとコロコロと色々な表情を見せてくれました。最後は秘密の扉にたどり着き、宝物を獲得したのでした。そして疲れた体でテントの中に敷いたお布団に寝転ぶと、あっという間に夢の中へ入っていきました。。。

2日目は陶芸体験から。ラボのお茶碗を作ってくださいている【器楽】さんを訪問し、お皿づくりとお茶碗の絵付に挑戦しました。丁寧な手つき、まっすぐな目で作品と向き合う姿は職人さながらでした。年長児には難しいとされていた作業でしたが、2人の創作意欲や日々の経験が生きた時間となっていました。お昼は調理さんが作ってくれたお弁当を持って好きな公園へ。ギリギリまで遊んでお泊まり保育は終了となりました。「つかれた〜」と家族揃ってのお迎えが嬉しそうでした。一緒にゆっくりおしゃべりをしたり、日常とはちょっと違う表情をする二人が見れたり、お泊まりの時間は私たちにとっても特別でした。ありがとうございました。 文 ちなちゃん



〈器楽〉  
〒254-0013 神奈川県厚木市田村 5-14-1



## 素敵な心をもつみんな

3月もいよいよ終わりを迎えます。

みなもの子どもたちと過ごしてきたこれまでの時間はそれはあまりにも濃く豊かな時間でした。

次第に増えていった仲間たち。9名の、元気で優しさと好奇心に満ち溢れたエネルギーあふれる子どもたちはこの一年の中でたくさんの「初めて」を経験してきました。感受性豊かな心の芽は輝いていて、日々の中で子どもたちがみせるキラキラとした姿に私たちは子どものもつ力や魅力を改めて感じる事ができました。

仲間の良いところをみつけて言葉にできる心があります。

困っている人に手を差し伸べる心があります。

異年齢で過ごす中で憧れる気持ちや思いやる気持ちが育まれてきました。

子どもも大人もやってみたくを形にしながら歩んできたこの一年。

一つ一つの経験は子どもたちにとってかけがいのないものとして根付き、次の一年またその先へと紡がれていくことでしょう。

今年築いてきた文化をこの子どもたちがどのように色付けていくのか楽しみで仕方ありません。

保護者の方にご理解をいただいたからこそ形にしていけることができたとも思っています。

温かく見守っていただきありがとうございました。

4月からも、やってみたくを形にしていってね。

文 もりもり

### 4月の行事予定

1(金) 入園式・進級式 26(火) 避難訓練  
21(木) 身体測定 28(木) こどもの日会

# KIDS SMILE LABO

## 第一回卒園式『森のパーティー』 write by ちなちゃん



卒園式当日。グリーンを基調としたパーティー装飾の園内に家族、仲間が集まりました。卒園児は緊張の面持ちも見られましたが、みんなの前に立つと、とても堂々としており、自分の言葉で話す彼女たちの姿は自信に満ち溢れているように感じられました。そして、在園児からは卒園児をイメージしたお花と言葉のプレゼントがそれぞれ贈られました。緊張したり照れたりもしていましたが、短い言葉に詰まった気持ち、その動作からは温かみを感じました。年齢もバラバラ、喧嘩もたくさんしたけれど、積み重ねてきた時間の中で生まれた「なかま」の絆がそこには流れているように感じました。開園1年目で、乳児の入園が多いと予想していた私たちにとって、卒園生を送り出せることは本当に感慨深いものでした。保育園生活最後の時間をここで過ごす決めてくださったご家族には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。二人が LABO に残してくれたものを大事に、これからも子どもたちとの時間を重ねていきたいと思えます。



### やってみたいを形に。「ドレス計画」

「ドレスを作りたい」と年長児の声から始まったドレス作り。せっかくならば卒園式は彼女たちの想いや頑張りや詰まったドレスを着て出で欲しいと思い、ドレスお披露目を軸に式を構成していきました。こだわりをたくさん詰め込んで一から手縫いやミシンで縫い上げたドレス。そしてそれに合うように作ったカバンにアクセサリ、靴。彼女たちのイメージの豊かさや、夢中力がギュッとそこに凝縮されたものとなりました。全部が完成し、全てを身に纏った時の彼女たちは達成感と満足感とに満ちた表情で本当にキラキラしていました。



### 2343 FOOD LABO にてランチコースを堪能♪

卒園式前日にはドレスを着て 2343FOOD LABO にてコース料理をいただきました。レストランの椅子にちょこんと座り、始めは緊張で頬を強張らせていましたが、美味しいお料理とおしゃべりで次第に表情が緩んでいました。シェフのプロの接客や、お料理と器で織りなす美味しい芸術ともいえる品々は周囲の大人も息を呑むものでした。デザートは2人のドレスの色に合わせたものが出てくるなど、愛情いっぱいのお料理に2人も感動し、胸もお腹もいっぱいになって帰ってきました。



事務のゆうゆが作りました。LABO で使用しているふきんやシートが縛ってあった紐をタッセルに、廃材の段ボールや木片を数字や下部の飾りにするなど、リサイクル品で素敵なボードに仕上げています。



厚木にある「約束の花束」さんをお願いしました。テーマは『巣立ち』。木々の間には花束が織り込まれておりました。式終了後、花束は皆さまのご家庭に巣立っていきました。

yakusoku-no-hanataba.com  
神奈川県厚木市中町 3-8-6 ヴァントール本厚木 1 階



卒園証書はその子を想ったポエムを載せて贈りました。その子と一緒に過ごしてきた時間を想いながら、担任と園長とで考えに考えました。そして、いつでも目に入り、これから進む道の心の杖になればという想いも込めて額縁に入れてプレゼントさせていただきました。